H.20.9.25.

症　例　報　告　（2）

1回の治療で痛みが消失した帯状疱疹

東京　郷　宗知

本症例は右前胸部より側胸部にかけての疼痛と発疹を訴えて来院した患者である。片側の肋間に沿ってのみ水疱と疼痛があるため帯状疱疹と診断し、治療を行ったところ翌日には痛みが消失した。

症　例：２５歳　女性　タレント
初　診：平成 20 年 6 月 16 日
主　訴：右胸部の痛みと発疹
現病歴：10 日前くらいから、右の乳房周辺にチリチリするような痛みを感じていたが、3 日前に痛みのある場所が赤くブツブツしてきたため皮膚科を受診。帯状疱疹と診断された。その後、服薬・塗布薬を使用しているが症状は変わらない。

現在は自発痛と衣服の接触時に痛みを感じる。夜間就寝時に寝がえりをうつと痛みで覚醒する。

仕事が多忙で、ここ３か月の平均睡眠時間は約２時間。

アルコール毎日飲む。タバコは吸わない。

既往歴：特記すべきものなし
家族歴：特記すべきものなし
診察所見：右乳房内側胸骨部から乳房下部、外側にかけての第４・第５、第５・第６肋間神経前通枝から側通枝にかけて紅斑と小水疱が認められる。

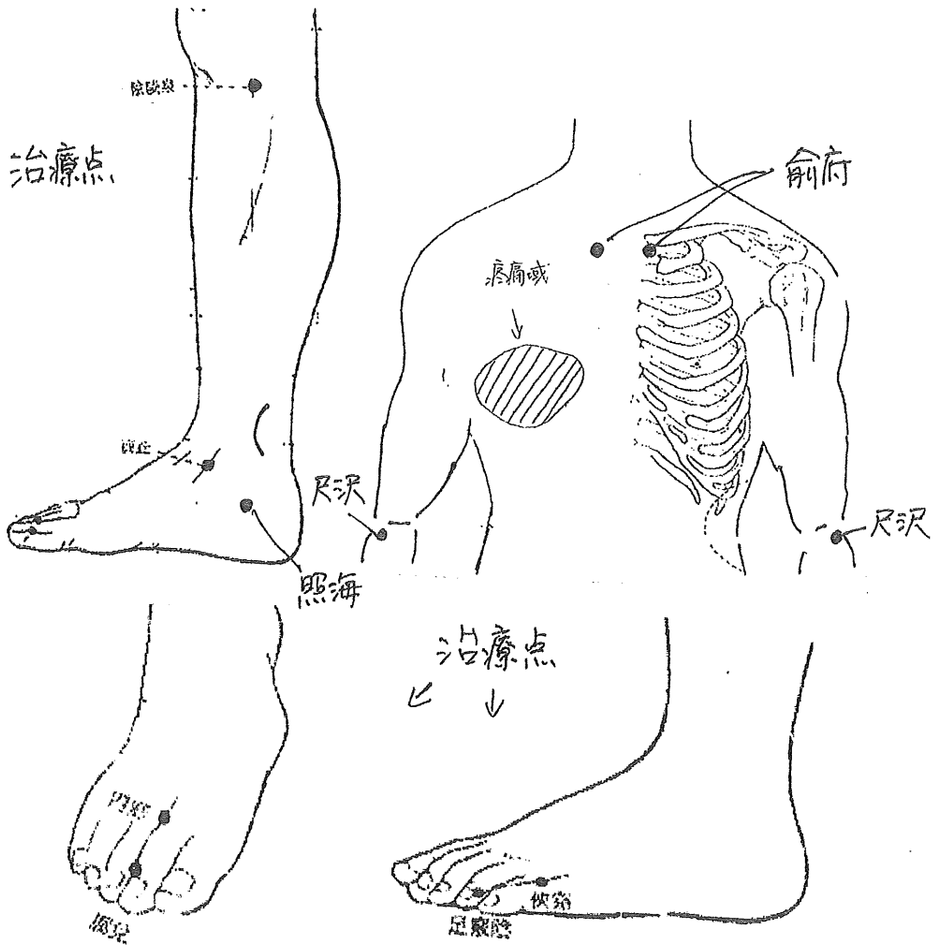
他に主たる所見はなし。

診　断：本症例は発症状態、疼痛が一定神経領域に一致して片側性に生じ、知覚過敏を伴うことから帯状疱疹と診断した。
対　応：病院での診断通り帯状疱疹ですが鍼灸治療によって、免疫力の低下を改善するとともに、炎症が治まり痛みが楽になります。
治療・経過：疼痛の軽減と炎症の消退、免疫力の増強を目的に以下のように行った。

治療体位は、仰臥位。脈状は「緊・数」。治療部位は右商丘、陰陵泉、厲兌、内庭、竅陰、俠谿、左右の照海、兪府、尺沢である。照海、兪府、尺沢はステンレス針１寸３分―２番（40mm-18 号）を用いて、照海は５mm 直刺、兪府は胸骨に向けて 10mm 水平刺で刺入、尺沢は 20mm 直刺。他の部位はステンレス針１寸―０番（20mm-14 号）で切皮し、１５分間置針を行った。抜針後、照海、兪府に半米粒大 7 壮、他の部位に糸状灸３壮の施灸を行った。

生活指導：入浴、アルコールは避け、消化の悪い食べ物は避け、仕事を休み安静にしてください。 免疫力が低下していますので心身ともの静養が必要です。
第２回（6 月 17 日）今朝起きたら、胸部の疼痛が全くなかった。その後も来院時間まで疼痛の再現はない。脈状も「緊」が消失、やや「数」が残存している。第１回目と同様の治療を行った。
第３回（6 月 23 日）どうしても断れない仕事が入り４日間地方に出張していたが食事に気をつけ、睡眠時間を１日７時間確保していた。疼痛は第 2 回目以降全く出ていない。水疱も完全に消失している。帯状疱疹の治療は終了。
考　察：本症例は皮疹の出現する１０日前より疼痛を自覚し、その疼痛は右第４・第５肋間に沿ってのものであった、皮疹も同一肋間上に小水疱が紅斑上に集簇しており、帯状疱疹と診断した。

畑[1]は、帯状疱疹の症状として、疼痛は皮疹の出現する１～１０日前から疼痛を訴えることが多く、疼痛は一定神経領域に一致して片則性に生じ、屢々知覚過敏を伴うとし、皮疹は初め浮腫性紅斑を生じ、短時間のうちに直径１～３mm の小丘疹にひきつづく小水疱を発生する。小水疱は数個ないし数十個ずつ紅斑上に集簇するが、その全体の配列は１ないし数個の神経支配領域に一致する。と、述べている。また、発症機序として生体に感染した水痘・帯状疱疹ウイルスは増殖して水痘として発症するか不顕性感染のまま経過するか、いずれにせよウイルスは一旦血流にのり、神経系に至り脊髄後根神経節に潜伏する。その後なんらかの誘因によってウイルスの活性化が起こり、末梢神経からその支配領域の皮膚を侵襲し増殖することにより帯状疱疹が発生すると述べている。

長野[2]は腎は髄を生むといわれているが、骨髄の造血機能と免疫細胞の生産も含まれている。なおまた腎が下垂体と副腎皮質、副腎髄質との関係が密接であり、それらの機能が低下することは、ひいては免疫機能が低下することにつながる。と述べている。本患者は以前より定期通院をしていたが、仕事が多忙になり今回の来院までに約３か月間ブランクがあった。その間、睡眠時間も不足し、休暇も取れない状態が続き、心身共に疲れ果てていたことが誘因となってウイルスの活性化を引き起こしたものと考えられる。故にウイルスの活性化を惹起しやすい体内環境を改善するために腎の強化を図ることと、帯状疱疹は実証性のものであり、その発症部位の所属経絡に対しての金穴・水穴にアプローチすることで早期の改善をみるものであることから、この２点にフォーカスを絞り治療を行った。年齢も若く生活指導を遵守してくれたこともあり、早期の疼痛消退から瘢痕治癒へとの経過を辿ったと考えられる。

参考文献
(1) 畑　清一郎　臨床医学示説　第７巻④皮膚科　P18～21 近代医学出版社 1982
(2) 長野　潔 鍼灸臨床わが３０年の軌跡　P102　医道の日本社 1993